

現代に息づく伝統

伝統文化は記憶や記録の中だけのものではありません。都市化が進んだ現在でも脈々と受け継がれているものもあります。



稲作（おだかけ）（大地区）



三日月神社祭礼（吉瀬地区）



市指定無形民俗文化財
「上境ひよっこ」（上境地区）



横田家住宅（大角豆地区から
つくば市吾妻中央公園内に移
築復元）【お問い合わせ：さくら
民家園 029-858-2798】



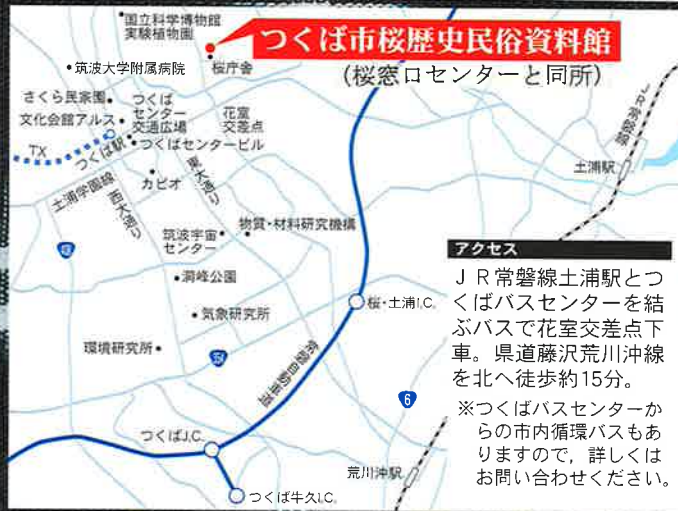
六地藏（古来地区）

施設の御案内



開館時間：午前9時～午後4時30分
休館日：毎週月曜日（ただし、月曜日が国民の祝日にあたる
ときは開館、その翌日が休館）、休日の翌日（土曜日、
日曜日を除く）、年末年始（12月28日～1月4日）
*このほかにも臨時休館となる日がありますので
御確認下さい。

入場料：無料



つくば市桜歴史民俗資料館 (桜窓口センターと併設)

アクセス

JR常磐線土浦駅とつくばバスセンターを結ぶバスで花室交差点下車。県道藤沢荒川沖線を北へ徒歩約15分。

※つくばバスセンターからの市内循環バスもありますので、詳しくはお問い合わせください。

つくば市桜歴史民俗資料館

〒305-0018 茨城県つくば市流星台61番地1
電話 029-857-6409

つくば市教育局 文化財課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園1丁目1番地1
電話 029-883-1111(代表)

つくば市桜歴史民俗資料館



はじめに

歴史資産や文化遺産は、先人の営為を私たちに伝えてくれるものです。しかしながら、これらは価値を正に評価されないまま、時代の流れとともに失われてしまうことが多々ありました。当資料館は、こうした資料を収集・保存すると同時に、一般に広く公開・展示するなどの活用を図ることによって生涯学習の機会を提供し、郷土の歴史と文化についての知識と理解を深め、もって郷土文化の向上と学術研究の発展を目的に設置されたものです。なお、展示資料は、つくば市内の旧桜村を中心とする地域の歴史資料と民俗資料になります。

展示の概要

生活と歴史

花室川の河床から出土したナウマン象の下顎骨、縄文時代のクッキー状炭化物や骨角器、常陸国河内郡役所跡と推定される国指定史跡金田官衙遺跡から出土した古代の瓦や土器などを展示しています。展示室入口の「古来の板碑」は、県内でも珍しい秩父産の緑泥片岩を用いた武蔵型の大型板碑(高212cm)で、鎌倉時代の文永9年(1272)の銘があります。優れた石造物として、昭和30年11月25日に茨城県指定有形文化財(考古)に指定されています。



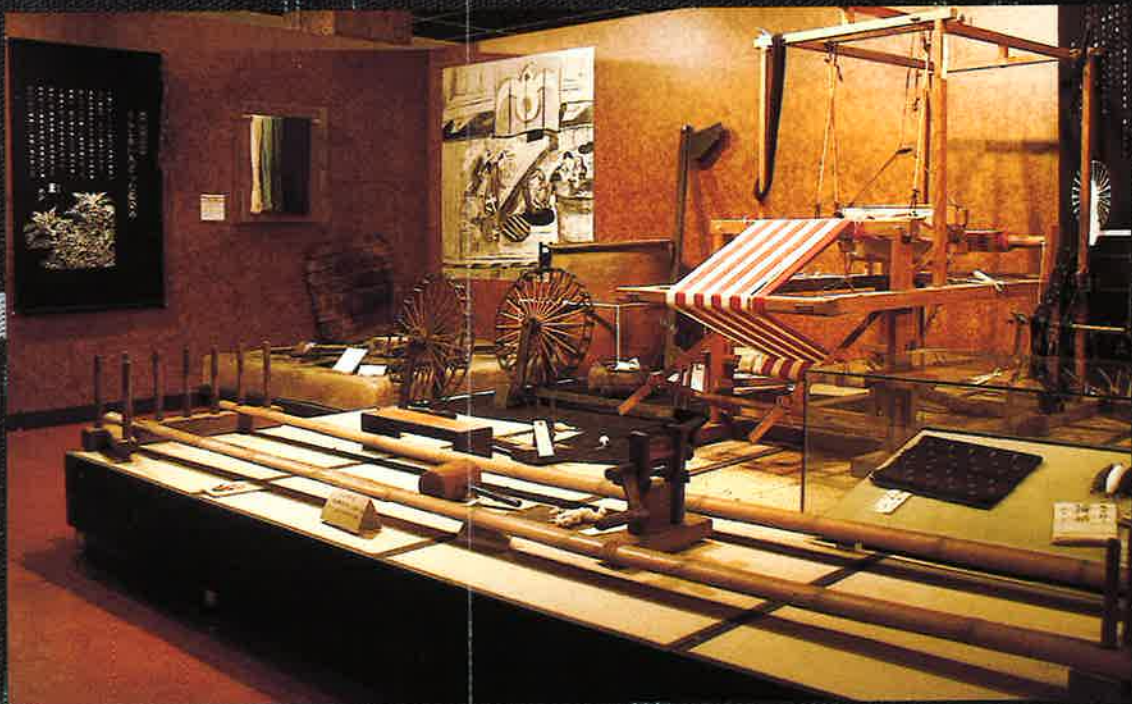
※表紙：茨城県指定文化財「古来の板碑」(部分)



生活と心

季節とともに行われる農作業や養蚕、例年繰り返される年中行事、こどもの成長とともに行われる通過儀礼、家を舞台にした冠婚葬祭、祭礼や講。かつてこの地方には、風土に根ざした農業を生産活動の基本とする暮らしと、その中で積み重ねられてきた習慣、風習、信仰といった生活文化と精神世界がありました。多くの家に農耕や運搬用の牛馬がおり、生活に必要なもののほとんどが自家生産される暮らしが営われていました。

ここでは、そのような生活や生産活動に使用されていた民俗資料を中心に展示しています。また、近代までこの地方で盛んであった藍染めのイメージを館内に取り入れるため、解説の布パネルを藍染めで作成しています。



野良帯(ぼろ帯)



紺(十字に井桁)



からくだと紺帳

(四点とも資料館収蔵資料)